

皇學館大学

研究シーズ集

令和8年4月発行

本研究シーズ集は、企業・自治体等の皆様との連携をより一層推進するため、本学研究者の研究内容や連携アピールを1課題1ページで紹介しています。

各研究課題をご覧ください、本学との共同研究や受託研究、地域の課題解決に向けた受託事業に関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡ください。

研究開発推進センター

受託研究及び共同研究に関するお問い合わせ、お申込みは研究開発推進センターへご連絡ください。

皇學館大学

研究開発推進センター

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-6466

Mail : kenkyu@kogakkan-u.ac.jp

地域連携推進室

受託事業等に関するお問い合わせ、お申込みは地域連携推進室へご連絡ください。

皇學館大学

地域連携推進室

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-8635

Mail : kikaku@kogakkan-u.ac.jp

福祉・高齢者・人口減少
歴史・文化
国際理解・外国語
道德教育
学校教育
産業・観光
健康づくり・食育
幼児教育・保健・子育て支援
数理・統計
生成 AI
防災・減災
文学・言語学
地域づくり
社会教育・生涯学習
体験活動・ワークショップ
環境・地理
SLA

研究課題／分野一覧

*研究者名の五十音順で表記

[illegible]

地域課題の可視化

研究の概要

- 東日本大震災で津波被災を受けた地域の地域自治会の再建について、現地でのアンケート調査などを実施しています。大規模災害時には地域課題が多く表面化すると考えられ、高齢化、地域のつながりの希薄化など、現地での地域コミュニティの維持、再建を研究しています。
- 被災地での学びは、三重県における災害への地域の備えに繋がります。それだけではなく、現地での学びは現在の私達の地域の課題解決につながると考えています。
- また、近隣市町からの受託研究のなかでは、近傍高等教育機関との連携によりアプリの開発を行ったり、地域の地形模型の作成及びそこへのGISデータの投射による住民ワークショップなどを実施しています。また、データ作成に関して無人航空機（ドローン）を活用した3Dモデルの作成を行っています。



地形模型作成の様子



宮城県でのアンケート

キーワード



- まちづくり
人口減少、高齢化などの地域課題を調査、報告する
- 社会教育
わかりやすく地域課題を伝える住民ワークショップの開催

連携アピール



- 複数年に渡り、伊勢志摩地域の自治体より受託研究を受託しています。地域課題をなるべくわかりやすく地域住民の方にお伝えし、解決策をともに考えるワークショップの実施を行っています。

研究者



池山 敦
IKEYAMA Atsushi

准教授

 教育開発センター



古事記・日本書紀を中心とした日本古代史

研究の概要

- 私、荊木は、大学において日本古代史や古代法制史について研究を進めています。各地域の歴史（おもに奈良・平安時代まで）を調査し、その成果をもとに、自治体史を編纂・執筆したり、一般市民への講演などを開催することができます。郷土の歴史に関する市民の理解を深め、文化的遺産を後世に伝える事業を計画している自治体との連携が可能です。
- 写真左は、荊木が編纂にかかわった自治体史の一つ『名張市史』、右は熱田神宮における重要文化財熱田本『日本書紀』の調査風景。



キーワード



- 日本古代史
- 日本神話
- 日本古代法制史

連携アピール



- 日本古代の歴史について研究・調査が可能です。
- 日本神話の意義や成り立ち、神社の祭神とのかかわりについて解説できます。
- 法律の歴史について研究・調査が可能です。

研究者



荊木 美行 教授

IBARAKI Yoshiyuki



研究開発推進センター 史料編纂所



算数・数学教育における教授法に関する研究 可積分系の理論における研究

研究の概要

■ 算数・数学教育について

本研究の概要は、保幼小中高と成長していく中で学ぶ「算数・数学」において、どのように系統立てて学んでいくと児童生徒がより深く算数・数学を理解することができ、主体的に学習に取り組めるかについてです。また、小学校における問題解決学習のプロセスと、中学校・高等学校における課題学習をもとにした問題解決型の学習についても併せて追究していきたいと考えています。

■ 純粋数学（解析学）

複素領域上の微分・差分方程式、およびその解として定義される特殊函数、特にパンルヴェ方程式（以下の6つの微分方程式）について研究しています。

$$\begin{aligned} P_I: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= -6q^2 + t, \\ P_{II}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= -2q^3 + tq + \alpha, \\ P_{III}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{1}{t} (\alpha q^2 + \beta) + \gamma q^3 + \frac{\delta}{q}, \\ P_{IV}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{2q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 + \frac{3}{2} q^3 + 4tq^2 + 2(t^2 - \alpha)q + \frac{\beta}{q}, \\ P_V: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \left(\frac{1}{2q} + \frac{1}{q-1} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{(q-1)^2}{t^2} \left(\alpha q + \frac{\beta}{q} \right) + \gamma \frac{q}{t} + \delta \frac{q(q+1)}{q-1}, \\ P_{VI}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{q} + \frac{1}{q-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \left(\frac{1}{t} + \frac{1}{t-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right) \\ &\quad + \frac{q(q-1)(q-t)}{t^2(t-1)^2} \left(\alpha - \beta \frac{t}{q^2} + \gamma \frac{t-1}{(q-1)^2} + \left(\frac{1}{2} - \delta \right) \frac{t(t-1)}{(q-t)^2} \right). \end{aligned}$$

キーワード



■ 算数・数学教育

小学校・中学校・高等学校における算数・数学教育全般

■ 純粋数学（解析学）

複素領域における微分方程式・可積分系・特殊函数論

連携アピール



- 算数教育分野においては、保育所、幼稚園、小学校、また、数学教育分野においては中学校、高等学校においてICT機器や教材・教具を用いて算数・数学的活動を通した出前授業の実施を行っていきたくと考えております。

研究者



上野 祐一

UENO

祐一

Yuichi

准教授 博士（理学）



教育学部 教育学科



国学者に関する研究 / 生涯学習としての博物館

研究の概要

- 本居宣長は国学の大成者と言われています。宣長が伝えた学問は幅広く、現在では様々な分野から研究がされています。宣長が伝えた学問がどのように広がっていったのかを解明していきたいと考えています。
- 近世期の人々が本居宣長の教えをどのように受容し伝播していったのかを明らかにするため、彦根の国学者・長野義言について研究しています。
- 伊勢や松阪近辺の国学者についても関心を持っています。地域から依頼いただいた講座講師の経験があります。
- 学芸員として、地域の歴史や文化財の保存・活用に取り組んでいます。資料調査や整理を行い、今後の活用へとつなげるお手伝いもしています。
- 地域や子どもたちの博物館教育普及活動にも取り組んでいます。一般の方を対象とした講座だけでなく、地域の子どもの向けワークショップも依頼いただいています。子どもたちや博物館に馴染みのない方たちの、博物館デビューをお手伝いできればと思います。



国学者の研究



小学生を対象とした親子教室

キーワード



■ 文化振興活動

国学者や文学の調査研究、講座講師。

■ 歴史・伝統文化活動

地域資料の調査整理や博物館活用の推進。

連携アピール



- 本居宣長や、地域に根差した近世国学者の魅力を発信します。
- 大人向けの講座のほか、子どもを対象としたワークショップや、博物館デビューなど、生涯学習に貢献できればと思います。
- 地域に眠る文化財の調査整理・保存活用についてご相談ください。

研究者



浦野 綾子

URANO Ayako

准教授 博士（文学） 学芸員



研究開発推進センター（神道博物館）



上代文学の研究

研究の概要

- 私の主たる研究は訓詁・注釈を通じた上代文学作品の理解です。万葉集・古事記・日本書紀などの古典ではその原本は存在せず、写本・版本しか残っていません。その中で諸本を比較検討しながら正しい本文と訓、解釈を導き出すことを行っています。上位文学作品には三重県の各地も登場します。作品の読解を通して、郷土への理解も深めることができればと思います。



キーワード



- 上代文学
- 万葉集
- 古事記・日本書紀

連携アピール



- 三重県には上代文学と関わる故地が多くあります。古事記・日本書紀では、神話や神武天皇東征・日本武尊（倭建命）などの話の舞台でもあります。万葉集では、大伯皇女・柿本人麻呂・聖武天皇・大伴家持をはじめ多くの歌が残ります。作品の理解を深めながら、その土地の魅力を発信したいと思います。

研究者



大島 信生

OSHIMA Nobuo

教授



文学部 国文学科



化石で育む学びの意欲と地域の元気

研究の概要

● 化石を使った学びへの動機付け

わたしは、三葉虫の化石などを使った理科教室を年間10回以上開催しています。その際のアンケートや、参加者の行動の観察から、学びへのより良いきっかけ作りの方法を調べています。

● 化石を使った地域づくりの継続観察

わたしは、地元で取れる化石を使って学びと地域づくりをめざす「みさと化石の会」(津市美里)に参加し、化石についての実習や普及講演などの活動を行なうとともに、化石を使った地域づくりがどのようにして生まれてゆくのか、地元の動きを数年にわたって継続観察し、地域づくりのコツを調べています。

● 以上の活動についての結果の公表

わたしはほぼ毎年、上のような活動について、論文や実践報告として公表しており、今後も公表予定です。



キーワード



- 化石学習
- 学校教育・生涯学習
- 地域づくり

連携アピール



・ 珍しい化石を使ったワークショップの提供

子どもから熟年まで対応可能。化石セットは40人まで対応出来ます。
所要時間90分。お声がけいただければ、どこでもお伺いします。

・ みさとの化石で自然体験・地域づくり体験

津市美里での化石採集や地域づくりに興味のある方はご連絡下さい。

研究者



大野 照文

OHNO Terufumi

特命教授 博士（自然科学）

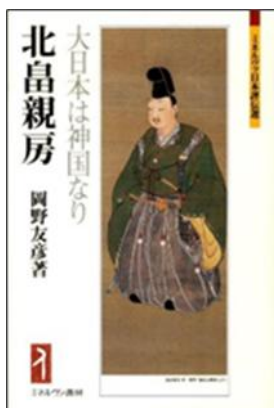
教育学部 教育学科



伊勢・志摩・伊賀の中世史

研究の概要

- 本研究の概要は、平安時代の後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代にかけての伊勢・志摩・伊賀3か国の歴史について、地域の人々と連携しつつ解明してこうとするものです。
- この研究テーマで、次のような講演実績があります。「中世伊賀の伊勢神宮領」（ハイトピア伊賀、2026年3月）「津市内の伊勢神宮領」（津市中央公民館、2026年2月）「四日市市内の伊勢参宮街道」（四日市市三浜文化会館、2025年11月）「津市内の伊勢参宮街道」（湯元榊原館、2024年6月）「熊野古道伊勢路の中世石造物」（尾鷲市立中央公民館、2023年10月）、「かめやま中世文書のみどころ」（亀山市歴史博物館、2023年1月）など。
- このテーマで、次のような著作があります。『北畠親房』（ミネルヴァ書房、2009年10月）、『中世伊勢神宮の信仰と社会』（皇學館大学出版部、2021年6月）。



キーワード



- 日本中世史
平安時代後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代の歴史
- 地域史
伊勢神宮・伊勢国司北畠氏・伊勢平氏などに関する歴史
- 博物館学
文化財保護・古文書学・地域博物館の社会的役割など

連携アピール



日本中世史を専攻し、三重県の中世史に興味を持っている関係から、中世の伊勢神宮や伊勢国司北畠氏、あるいは伊勢平氏について、地域からの講演依頼にお応えしてきました。また前職が博物館学芸員であった経験から地域の博物館や文化財保護に関係する仕事でも社会貢献しています。

研究者



岡野 友彦 教授

OKANO Tomohiko



文学部 国史学科



図書館における読書会の研究

研究の概要

社会教育施設としての公共図書館では、読書会（集会活動）の一環として、文学散歩やウィキペディアタウンなどの取り組みが行われています。また、学校教育においても、国語科教育や学校図書館でそれらが実施されることもあります。これまでの文学散歩は、主にまちを「歩く」ことに注目が集まっていましたが、そのような認識を改めることを目指し、「歩く」ことの前後にある「読む」「書く」などの活動も視野に入れていきます。

そのほかにもビブリオバトルや一箱古本市などの事例があるように、全国の公共図書館ではさまざまなイベントが実施されています。これらの活動を読書会と捉えることで、その歴史的背景や果たしている役割を追求しています。

これまでに、以下の研究成果を発表しています。

- 【図書】岡野裕行『文学散歩の研究』文学通信，令和8年，342p.
- 【論文】岡野裕行「図書館における復刻本の収集：野田宇太郎と日本郷土文藝叢書刊行会を中心に」『情報メディア研究』第24巻1号，令和7年，p.1-27.
- 【論文】岡野裕行「文学散歩と図書館」『図書館界』第75巻1号，令和5年，p.34-55.
- 【論文】岡野裕行「三つの文学散歩：野田宇太郎からウィキペディアタウンへ」『日本近代文学』第106集，令和4年，p.160-175.
- 【論文】岡野裕行「ビブリオバトルと子ども読書活動推進計画」『図書館界』第73巻5号，令和4年，p.438-460.



キーワード



- 図書館，読書会，集会活動
- 文学散歩，まちあるき，ウィキペディアタウン
- 文学館，文学情報資源
- ビブリオバトル，一箱古本市

連携アピール



図書館情報学と日本近現代文学研究の両分野にまたがる学際領域のテーマとして、これまでに文学館や文学散歩に関する研究を行ってきました。ここ数年は、まちなかに点在する文学的な痕跡をめぐり歩く活動に関心を持っています。そのほかにも、ビブリオバトルや一箱古本市など、本を介したコミュニケーションの場づくりにも関わっており、これら活動も読書会の一種として研究をしています。

研究者



岡野 裕行 教授 博士（学術）

OKANO Hiroyuki



文学部 国文学科



教育現場に求められる対応力・実践力の修得

研究の概要

- 学校で起きやすい事象事例をもとに、シミュレーション学習を行います。救急処置が必要な場面を再現し、どのような対応や連携が求められるのかを体験してもらうことで、救急処置に必要な知識と技術を修得し、今後の課題を参加者で共有します。
- 性教育における効果を、縦断的・横断的に評価します。指導を行う際は、一人ひとりの心身の発育・発達に個人差がある点に留意して、子どもの実態に基づいた授業内容を構築します。アウトプットとして子どもにとって役立つ知識を身につけることと、自分の身を守る行動の実践を目指します。



キーワード



- 幼児教育・保育分野
乳児保育、子どもの保健、健康と安全の分野における研修
- 健康づくり分野
教育現場に必要な救急処置、食物アレルギー対応の研修
- 性教育分野
出前性教育講座

連携アピール



- 安全教育、救急処置対応
保育・学校現場に求められる救急処置は、医療機関に搬送するまでの適切な手当てが求められます。教職員に対して、チーム学校の一員として教職員一人ひとりが自分の果たす役割について学び、課題を見出すための研修を提供します。また、子どもたちに対して、ケガや事故を防ぐための安全教育を実施するとともに、自分たちでできる救急処置の技術を身につけさせることや、事故再発防止のための環境作りなどについての講習を実施します。
- 性教育講話
人権教育を基本とした生きるための性（生）教育を提供します。包括的性教育に根差した、命の安全教育をはじめ、自己決定できる対応力や自分を大切にできる実践力を育みます。教職員、子どもだけでなく、保護者への講習なども可能です。

研究者



小川 真由子

OGAWA Mayuko

准教授

 教育学部 教育学科



英語スピーキングの指導と評価

研究の概要

- 英語で会話をするには、正確さや流暢さ等「言語能力」が必須ですが、それだけでは英語で会話ができるようにはなりません。話をふくらませたり続けたりする「対話能力」が欠かせないのです。
- 「対話能力」を向上させるにはどうすればよいか、小・中学校で行われている Small Talk という活動を用いて「対話能力」を向上させる方法を研究しています。
- 「対話能力」を評価するには、教師やALTと話す「面接型」テストと学習者同士が話す「対話型」テストがあります（図1参照）。小・中学生の「対話能力」を評価するには「面接型」テストと「対話型」テストのどちらが適切なのかを研究しています。
- 研究の成果は、県や市町が主催する教員研修に活かしています。

教師や面接者と話す
「面接型」テスト



学習者や受検者同士が話す
「対話型」テスト



図1. 対話能力を評価する2つのテストの型



キーワード



- 小・中学校外国語教育
- 英語の授業づくり
- 話すこと [やり取り]



教員研修の様子

連携アピール



- 15年にわたり、県市町・小中学校主催の公開授業の助言者や教員研修の講師を200回以上担当しました。
- 現在、英語のスピーキング力、とりわけ双方向で話す「やり取り」の力を向上させるための指導と評価を研究しています。

研究者



川村 一代

准教授

KAWAMURA Kazuyo



教育学部 教育学科



伊勢・熊野の信仰と和歌

研究の概要

本研究の概要は、中世の伊勢や熊野の神仏習合が中世和歌の本質に与えた影響を解明するため、中世和歌の源流をなす西行と慈円という歌僧の和歌について悉皆的な調査を行うというものです。中世和歌はその本質において、近代的な自己とは相反する没個性的な類型性を有します。宗教信仰も、個々人のばらばらな思いを一つの共同性のうちに包摂するが、中世和歌もまたそれに類する「本の思想」なるものを持ちます。それが本歌取りや、本意（もとの心）、歌の本体（＝『古今集』）、本地といった概念です。中世の国土観における伊勢や熊野は、超越的存在としての神仏が垂迹する「本」（もと）の地であったのではないかと、という見通しのもと、歌道仏道一如観の研究を日本中世史、仏教学、地理学とも連携しつつ行っています。



キーワード



- 地域観光
- 日本中世文学
- 仏教学

連携アピール



私の専門とする中世和歌において、和歌と仏教がタイアップして「歌道」が作り上げられてゆく中で、伊勢や熊野は聖地となりました。平安時代から和歌は「百首歌」という形式で神仏へ祈願を届ける手段となっていました。その中で中世和歌は祈りの言葉として完成され、さらに熟成を重ねていきます。その熟成の過程において慈円は大きな役割を果たしています。伊勢や熊野へのはるかな道程の苦しさを乗り越え、自然の風景に心を澄ます修行は西行和歌の本質をなし、芭蕉の『奥の細道』にも繋がっていったのです。

研究者



木村 尚志

KIMURA Takashi

教授 博士（文学）



文学部 国文学科



伊勢を拠点とした歴史資料の調査研究・活用

研究の概要

- 中世以降に日本全国で大流行した「伊勢参宮」と、伊勢への信仰を広め、現代の伊勢志摩観光のベースを築き上げた「伊勢御師」について研究しています。最近では、新しく発見された（に触れる機会）などの取り組みも行っています。最近では、新しく発見された約15,000点にも及ぶ膨大な伊勢御師関係の歴史資料や、自治体や所有者の方からご要望いただき、古い墓石を調査しています。
- 地域に残された未公開の歴史資料を調査・整理し、展覧会・講演会・学校の出前授業といった様々な機会に、研究で得られた情報をわかりやすく発信しています。また、皇學館大学佐川記念神道博物館の学芸員として、歴史資料に書かれた文字（くずし字）の読解講座や、小学生以上の子どもたちを対象としたワークショップ（歴史・伝統工芸などに触れる機会）などの取り組みも行っています。



古文書調査の様子（資料整理・撮影など）



墓石調査の様子（拓本・実測図・撮影など）

キーワード



- 日本中世史・神道史
中世の伊勢神宮や信仰、伊勢御師の活動と展開に関する研究
- 生涯学習・文化振興活動
神道博物館を拠点とした地域史資料の調査研究・活用

連携アピール



- 伊勢を拠点として、地域に残された未公開の歴史資料を調査・活用し、展覧会や講演会、取材などを通じて情報発信しています。
- 小学生以上の子どもたちを対象としたワークショップや課外授業を通し、地域の魅力を次世代へ繋げる活動をしています。
- 自治体や所有者の方からご要望をいただき、古い墓石を調査しています。

研究者



小林 郁

KOBAYASHI Kaoru

准教授 博士（文学） 学芸員



研究開発推進センター（神道博物館）



食支援から目指す健やかな育ち、健康維持

研究の概要

本研究のテーマは、主に乳幼児期の食の重要性を明らかにするとともに、地域における子育て支援活動でそれを具現化することです。

また、食物アレルギー児など、特別な配慮が必要な子どもさんに対する保育現場での対応についても、保育現場に対するアンケート調査を基に「保育の専門家である保育者に寄り添った支援の方法について伝えています。



キーワード



- 食育
- 食物アレルギー児支援

連携アピール



- 将来にわたり健康を維持し、健康増進を図るための生活習慣を中心とした講演会活動を行います。
- 三重の食材などを活かした調理体験など、実践的体験活動を通じた食育事業を行います。
- 保育施設における食物アレルギー児対応について、保育者視点で演習を含め行います。

研究者



駒田 聡子

KOMADA Akiko

教授 博士（医学）



教育学部 教育学科



ことばの資源性に関する研究

研究の概要

- ことばのもつ社会的な役割を資源として捉え、文化的価値の可視化における提案とその効果について検証します。
- 「ことばは命を守れるか」をテーマに防災・減災におけることばの伝承力を高める研究に取り組みます。



キーワード



- 文化振興活動
ことばを活用した地域づくり
- 地域社会活動
ことばを活用した防災・減災対策

連携アピール



地（知）の拠点整備事業（COC事業）の事業推進責任者として地域課題の解決に取り組んできました。ことばの調査を通じて、地域の文化的資源の活用についても広く関心を持ち、地域社会に貢献できるよう取り組みを進めています。

- 三重弁辞典（2025年版三重県民手帳、令和6年10月）
- 「高知県西部の地震津波記念碑の伝承内容と方法について」（皇學館大学文学部紀要第60輯、令和4年3月）
- 伊勢市の花・木・鳥選考委員会答申（伊勢市ホームページ、令和3年12月）
- 三重県内ファミリーマート設置イーネットATMの方言音声案内の構築（平成28年12月）
- 伊勢方言かるた（リントス、平成26年1月）

研究者



齋藤 平
SAITO Taira

教授 博士（文学）
文学部 国文学科



日本古代における朝廷と神宮の祭祀・儀礼の研究

研究の概要

- 皇位継承に関わる祭祀・儀礼（譲位・即位式・大嘗祭）について整理して問題点を明らかにするとともに、『儀式』に規定される祭祀・儀礼についての基礎的な研究を進めています。過去には平安時代の儀式書『貞観儀式』に規定された内容を読解として、学生たちと映像教材を作成しました。
- 古代伊勢神宮の最重要古典である『延暦儀式帳』の注釈書刊行に必要な基礎的な作業として、「古代伊勢神宮に関する未公刊史料を活用して基礎的研究」を進め、儀式帳を中心とした未公刊注釈書の翻刻と掲載した資料集の順次刊行をする。

キーワード



- 日本古代史、神道史
- 皇室の歴史・祭祀
- 神宮の歴史・祭祀

連携アピール



連携史料に基づいた日本の古代史の研究をしています。特に伊勢の神宮の最重要古典である『延暦儀式帳』の読解をすすめています。また、朝廷の儀礼・祭祀について、中国大陆からの影響と日本国内での変遷についても研究課題としています。普段の生活であまり知ることのできない、それでいて日本文化の根本とも言うべき皇室や伊勢の神宮の祭祀や行事についての情報提供を考えています。

研究者



佐野 真人 准教授 博士（文学）

SANO Masato



研究開発推進センター 神道研究所



理科教育における教材開発および授業実践

研究の概要

- 昆虫は生物としてヒトと共通する部分を多く持ち、その体の仕組みや特性は医学や工学にも応用される有用な生き物です。
- ヒトとの共通性を有する昆虫を用いた教材を開発し、保育所・幼稚園から高等学校に至るまで現場に提供することで、実感を伴った理解につながると考えられます(図1)。
- 本研究では、身近な存在である昆虫を用いた生活科および理科の教材を開発し、大学生が主体となった出前講座を実践します。さらに、児童・生徒を対象としたアンケート調査から教育効果を検証しています(図2)。

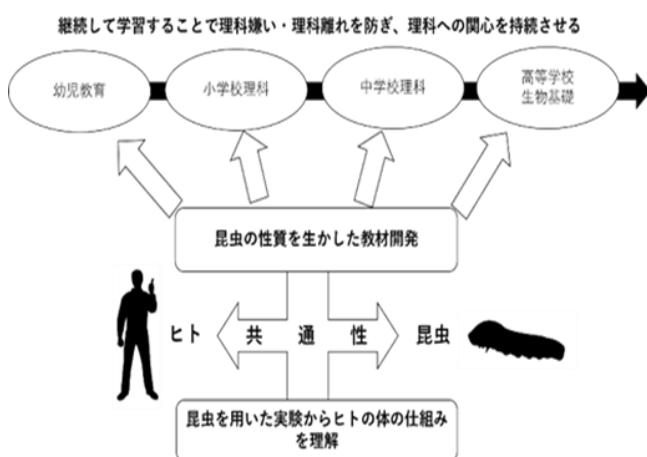


図1 昆虫を用いた教材開発のフローチャート



図2 生活科の出前講座

A：講座を進行する大学生

B：ICTを活用して昆虫を観察する児童

キーワード



■ 理科教育学

保育所、幼稚園、小学校生活科・理科、中学校理科、高等学校生物基礎・生物における昆虫を用いた教材の提供

■ 環境教育学

生態系・環境教育

連携アピール



理科教育分野では保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において昆虫を用いた教材の開発と出前講座、環境教育分野では昆虫を用いた生態系の展示や説明を行っています。このような分野で共同研究や地域に貢献することができればと思います。

研究者



澤 友美 准教授

SAWA Tomomi



教育学部 教育学科



天皇・伊勢神宮の祭りと歴史

研究の概要

- 日本列島は豊かな自然に恵まれている反面、古代より自然災害が多く、列島の人々は地域の安全や食物の豊かさを願って祭りを行ってきました。なぜ神々への信仰と祭りが現在にまで継続してつながってきたのか、その理由や歴史的経緯の解明を目的としています。
- 天皇の御代替わりには大嘗祭という特別な祭りが行われ、毎年11月23日には宮中で新嘗祭が行われています。この天皇の祭りは古代からの古い歴史がありますが、なぜ天皇は祭りを行い続けてきたのか、祈りの目的とは何か、祭りの具体的な内容と歴史について研究しています。
- 天皇の祭りは伊勢神宮に鎮座する天照大御神に対して行われてきました。伊勢神宮の祭りも古代からの歴史があり、20年に1度、お宮を新しくして大神をお遷しする式年遷宮が行われ続け、江戸時代には多くの参拝者が伊勢を訪れました。天皇の崇敬から庶民の参拝まで、伊勢に人を惹きつける磁力の根源とは何なのか、祭りのあり方とその歴史から解明することを目的としています。



式年遷宮の遷御の儀式



令和の大嘗宮

キーワード



- 天皇の祭りはなぜ続けられてきたのか。天皇の祈りとは何か。
- なぜ伊勢神宮は人々の信仰を集めてきたのか。式年遷宮が重要視され続けてきたのはなぜか。
- なぜ神社は今日まで存在し続けたのか。信仰の根源と神話伝承。

連携アピール



- 伊勢神宮には天照大御神を祭る内宮だけでなく、豊受大御神を祭る外宮や、様々な別宮、神社があります。それぞれの由緒や意義、歴史・地域性について解説することができます。
- 伊勢神宮からやや離れた明和町に斎宮があり、未婚の皇女を遣わす慣例がありました。斎王の祭りと存在意義について解説することができます。
- 天皇・皇室の概要や歴史と祭りについて解説することができます。

研究者



塩川

SHIOKAWA

哲朗

Tetsurō

准教授 博士（宗教学）



研究開発推進センター 神道研究所



健康寿命を目指す地域コミュニティづくり

研究の概要

- 本取り組みの概要は、超高齢社会における健康寿命のための認知機能の改善へとつながる「音読の効果」を身近なコンテンツである絵本、古典文学や図書館所蔵の地域資料などを題材に音読することで脳のトレーニング、全身の筋肉トレーニングへとつなげ、無理なく、日常生活に取り入れられる健康長寿の方法をグランドジェネレーション世代へ提案するものです。
- 自治体主催「シルバーカレッジ」や公共図書館主催「認知症予防講座」などで、新聞や古典文学の音読、絵本のアニメーション、昨年からボードゲームも組み合わせ、思わず笑顔になれる実践を企画運営しています。楽しく頭と身体を使って健康長寿を目指します。
- 介護予防指導士と考案したオリジナルな運動や参加者全員で行うコミュニケーションゲームも取り入れ、地域でともに健康に暮らすことを大切にした講座の参加者は延べ1,500人を超えています。



キーワード



- 社会教育・生涯学習
地域の学びの場、交流の場を創出する実践事例の紹介
- 地域づくり
絵本、新聞、ボードゲームを利用したコミュニティづくり

連携アピール



令和7年度高齢福祉課事業のあま市介護予防リーダーとして、また公共図書館長として地域のステークホルダーと地域住民の集う場づくりを実践しました。図書館の絵本、ボードゲームなど、簡単なコミュニケーションゲームで免疫力を上げ、健康長寿を目指すワークショップを提案します。

研究者



千邑 淳子

CHIMURA Junko

准教授



文学部 国文学科



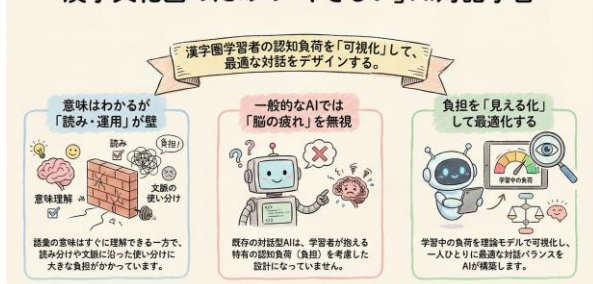
生成AIを活用した大学教育における学習成果と公平性の評価フレームワーク

漢字文化圏学習者向けの日本語習得支援におけるAI対話エージェントと認知負荷の最適化モデル

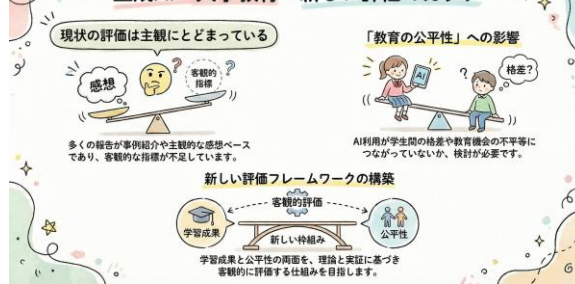
研究の概要

- ・生成AIを活用した学習支援が大学教育に急速に導入されています。しかし、生成AIの教育的有効性は主として事例報告や主観的評価にとどまり、学習成果の客観的評価指標および教育機会の公平性への影響は十分に検討されていません。本研究は、生成AIを前提とした大学教育において、学習成果と公平性を同時に評価可能な倫理的・実証的フレームワークを構築することを目的とします。
- ・漢字文化圏の日本語学習者は、語彙意味理解に優位性を持つ一方、読み分け・語用・運用面で特有の認知負荷を抱えています。生成AIによる対話型学習が普及しているが学習者の認知負荷を考慮した設計は十分ではありません。本研究は、AI対話における認知負荷を可視化・最適化する理論モデルの構築を目指します。

漢字文化圏のための「やさしい」AI対話学習



生成AI×大学教育：新しい評価のカタチ



キーワード



■ 生成AI

■ SLA (Second Language Acquisition : 第二言語習得)

連携アピール



本研究は、生成AIの急速な教育導入に対し、従来不足していた「客観的評価」と「教育機会の公平性」という二つの課題を統合的に解決することを目的としています。具体的には、生成AIの利用過程を学習データとして取得・分析し、成果物中心の評価から、学習プロセスを重視した新たな評価体系へと転換します。これにより、学生がいかにAIを活用し思考を深化させたかを定量的に把握することが可能となります。さらに、日本語教育領域においては、漢字文化圏学習者特有の認知特性に着目し、生成AIを対話型学習エージェントとして活用することで、語彙理解と運用能力の乖離を解消することができます。学習者の理解度および認知負荷に応じた適応的支援により、効率的かつ公平な学習環境を実現します。本研究は、教育との連携を通じて実証的検証を行い、最終的にはAI時代における教育評価のモデルとして実現することを目指しています。

研究者



張 磊
ZHANG Lei

教授 博士（工学）



文学部 コミュニケーション学科



社会科におけるエネルギー環境教育

研究の概要

- 地球温暖化が深刻な問題となり、世界的に脱炭素・カーボンニュートラルへの取り組みが求められています。しかし、国家間、地域間、共同体間などにおける意見の相違によって、取り組みはなかなか進んでおりません。こういった現状から、脱炭素・カーボンニュートラルの実現を目指すためには、新たな再エネ技術を導入するといった科学的なアプローチだけではなく、話し合いを通じた他者理解や合意形成といった、社会的なアプローチが重要となってきます。社会科においてどのような授業を構築することで、脱炭素・カーボンニュートラルに向けた他者理解や合意形成が図られるのか研究を進めています。
- 脱炭素・カーボンニュートラルといった概念は、複雑で理解しづらいものです。このような概念を児童・生徒が具体的に捉えることができる方法についても研究を進めています。この研究の一環として、「伊勢市環境フェア」にゼミで出展し、地域の方々に脱炭素・カーボンニュートラルについて考えていただく取り組みにも参加しています。
- 総合的な学習（探究）の時間において、脱炭素・カーボンニュートラルをどのように位置付けていくか、ということについても研究を進めています。



キーワード



- 社会科・総合的な学習（探究）の時間
- エネルギー環境教育
- 脱炭素・カーボンニュートラル

連携アピール



- 脱炭素・カーボンニュートラルなどについて、児童・生徒と共に考える出前授業の開催。
- 脱炭素・カーボンニュートラルを位置付けた社会科や総合的な学習（探究）の時間についての単元開発・授業開発・共同研究など。

研究者



萩原 浩司

HAGIWARA Koji

准教授

教育学部 教育学科



図画像資料を用いた近代景観の研究

研究の概要

- 学生の満洲派遣事業や戦前期の教育現場における満洲の教えられ方などを通して、一般国民が国策としての満洲経営をどう捉えていたのか、を分析しています。現在は、宗教団体による満洲開拓への参画について、思想的背景やそれぞれの団体がいかなる活動を行ったのかを分析しています。
- 視覚資料や音源資料など多様な資料を活用して歴史を分析することが必要です。最近、明治～昭和のSPレコードに記録された音源（音楽・演説・ドラマ・実況など）を再生して、当時の人々が聴いていた「音」がどのような社会的背景によって生み出され、いかなる影響を与えたのかを研究しています。



蓄音機を用いた戦前のSPレコード再生



近代伊勢の観光案内より（大正時代）

キーワード



- ①歴史・伝統文化
〈近現代史〉
満洲経営、日中関係史、戦後の引き揚げに関する研究
- ②文化振興活動
 - ◆地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開
 - ◆近現代の図画像資料（古写真や絵葉書等）や音源を歴史研究だけでなく観光など地域振興に活用する

連携アピール



- 個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開したり、地域の博物館と連携して蓄音機コンサートを実施したりする活動を行っています。いずれの活動も歴史や神道を学ぶ学生たちと共に実施しており、「歴史資料を用いた展示を企画したい」、「地域の歴史を何かの形で発信したい」、「歴史や文化に関するイベントを行いたい」といった要望に対し、学生チームと共に企画から開催まで全般にわたる協力ができます。これまでに、皇學館大学附属図書館、橿原神宮宝物館、松阪市旧長谷川治郎兵衛家、中津川市ひと・まちテラス、奈良県アンテナショップ（まほろば館）、千代田区立日比谷図書文化館特別研究室、奈良県天理市柳本町などで特別展、ミニ展示、ワークショップを行いました。
- 研究室では数千枚の戦前の絵葉書、数百点の戦前の観光ガイドなどを所蔵しており書籍や展覧会、自治体の印刷物などに資料を提供し活用を図っています。

研究者



長谷川 怜

准教授

HASEGAWA Rei



文学部国史学科



若者による地域社会活動の教育的効果と地域に与える影響

研究の概要

- 本研究は若者による地域社会活動の教育的効果ならびに地域に与える影響をテーマにしています。
- すでに、本学の地域社会研究会や茶業研究会、CLL活動、ゼミにおいて、和紅茶の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」、「うつぼ美人」などの商品を企画・開発しています。
- 本研究では、その活動を通して、参加した学生にどのような教育的効果があったのか、また関係した地域にどのような影響を与えたのか、についての新たな知見を探っています。



キーワード



■ 地域社会活動

アンケート調査やインタビュー調査など社会調査の技法を用いた地域や教育に関わる共同研究

連携アピール



社会調査関連で連携したり、また地域社会研究や茶業研究会の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」、行政・地元企業とコラボをしている「うつぼ活用プロジェクト」や「お茶Bottleプロジェクト」、「お茶の木プロジェクト」などを活用して別の商品を開発したり、新たな商品を開発する時に連携を希望します。

研究者



藤井

FUJII

恭子

Kyoko

教授



現代日本社会学部 現代日本社会学科



古代東アジアの歴史と交通

研究の概要

本研究では、三世紀から六世紀にかけての東アジアの外交・交流を扱います。

この時期、中国では三国時代から南北朝時代にあたり、中国国内が分裂し、いくつもの国が諸外国を味方につけるための外交戦を行っていました。

日本では、卑弥呼が「親魏倭王」の印を受け取ってから、遣隋使が派遣されるまでの、国家形成の時代にあたります。日本だけでなく、朝鮮半島や中国東北部、モンゴル高原やチベット高原といった、東アジア全体で活発な外交が繰り広げられていました。

まだ通信・交通の手段が限られていた古代の外交を明らかにすることで、東アジアでの国や民族の相互理解がどのように始まり、進展したのかを知ることができます。

キーワード



- 東アジア史
- 中国
- 三国志

連携アピール



日本の文化の多くは中国大陸からやってきたものです。

中国の歴史・文化を知ることによって、逆説的に日本という国のアイデンティティを明らかにできるのではないのでしょうか。

研究者



堀内 淳一 教授 博士（文学）

HORIUCHI Junichi  文学部国史学科



人物伝教材と日本文化教材による道徳教育の研究

研究の概要

本研究は、道徳教育に関する授業改善および教材開発、ならびに教育的資産としての日本の伝統文化の教材化の可能性を探ることを目的としています。

道徳教育においては、現場の教員の不安感に寄り添った授業改善に取り組むとともに、特に人物伝教材に着目し、生徒が「自分ならどうするか」を主体的に考える授業の開発を目指しています。近年では、人物伝とAIの活用を組み合わせた授業モデルの開発にも取り組んでいます。また、地域の人物に関する教材開発も進めています。

日本文化を基盤とした教育については、例えば、伊勢の神宮に関する歴史や文化、江戸時代の「おかげ犬」に見られる助け合いの精神などを題材とした授業開発を行っています。さらに、古事記「を」教えるのではなく、古事記「で」自己の生き方の問いとして読み解く教材研究にも取り組んでいます。

これらの研究成果を基に、学校現場における授業づくりの支援や教員研修、地域人物教材の開発、一般向け公開講座などを通して、学校・地域・大学の連携による教育実践の展開を目指しています。



キーワード



- 道徳教育
- 人物伝教育
- 中学生からの日本文化（伊勢の神宮・古事記）

連携アピール



中学校教員として12年間、道徳教育および神道教育に携わってきました。道徳教育では、現場の先生方の困っていることに寄り添った授業改善、文部科学省検定教科書の執筆にも関わっています。また日本文化を基盤とした教育については、伊勢の神宮や古事記に関する教材開発を進めてきました。出前授業や一般向けの公開講座などを通じて、こころ温まる取り組みを実施いたします。

研究者



松尾 大輔 助教 修士（文学）

MATSUO Daisuke



教育学部 教育学科



国際政治、米中関係 日本の外交安全保障

研究の概要

2025年1月に新政権が発足した米国の動向は、日本だけでなく世界に大きな影響を与えようとしている。トランプ共和党政権は、ウクライナを侵略するロシアに対して、これまでとは異なったアプローチを採用している。

一方で近年の中国は、特に習近平指導部発足以降、極めて強硬な対外政策を展開している。米中関係は覇権を巡る争いと化し、台湾情勢は急速に緊迫の度合いを増している。

我が国は、令和4年12月に国家安全保障戦略を改定し、防衛力強化の方向性を打ち出した。最新の動向を踏まえつつ、当課題について研究を進める予定だ。



キーワード



■ 国際戦略

企業や自治体が海外戦略を立案する際に、その基盤となる国際情勢についての認識理解をともに深める。

連携アピール



■ 幅広い層を聴衆としての講演実績あり

研究者



村上 政俊

准教授

MURAKAMI Masatoshi



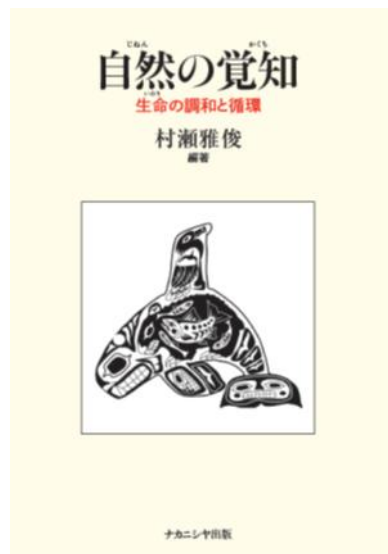
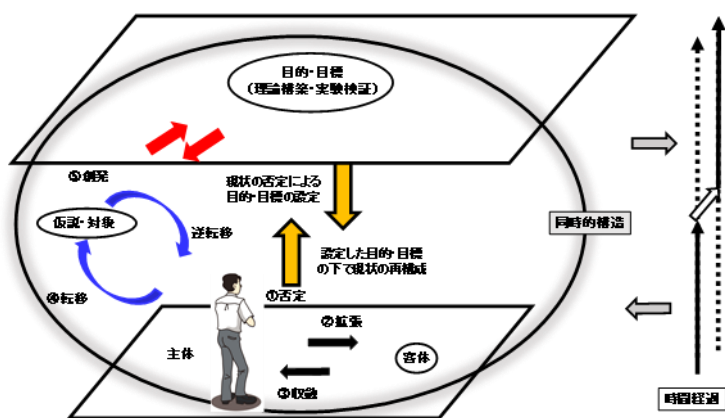
現代日本社会学部 現代日本社会学科



正解のない世界と正解を求める現代教育の狭間に挑む

研究の概要

- 本研究の課題：「如何にして、正解のない世界と正解を求める現代教育の狭間に挑むか」、すなわち、「どうすれば、対立を乗り越え続けることができるか」。これが、本研究の課題です。重要な観点とは、対立を乗り越え続けるには矛盾の活用が不可欠です。そのために失敗を恐れずに失敗から学ぶこと、真剣な遊びを通して物事の本質を学ぶこと、病いを体験して健康に目覚めることが大切です。
- すべての体験において、創造性が求められます。



『自然の覚知—生命の調和と循環』2024年出版

キーワード



- 文理融合による統合的研究：創造性とはどういうことか？ノーベル賞の発想から学ぶ「出来ないことこそ創造の原点」
- 芸術と心理学の統合的研究：不可能への挑戦とはなにか？一人では出来ない事から「心と身体と運動の統合に向けて」
- 未来創成学の展望と創造性：競争から共創への転換とは？自他一如の「共創」による「輝かしい未来の創造の展望へ」

連携アピール



- すべての鍵は、自分自身の「ものの見方」にあります。「ものの見方」を変えると、それまで「目に見えなかった世界」が、色鮮やかに輝きはじめ、語りはじめてくれます！
- 私たちは、「遊び」と「学び」を分けて考えがちですが、「遊び」と「学び」を共に享受することで「共創と調和の循環」を実践することが出来るのです。もちろん、みなさんにも、そのような機会を創り出すパワーがあります。

研究者



村瀬 雅俊

教授

MURASE Masatoshi



教育学部 教育学科

